

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

## 深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年10月8日

### 今月のトピックス 「GDP 600兆円目標は株価にプラス」

中国株の急落に端を発した同国の景気の先行き不安が拭えないことから、世界同時株安が進行しています。本年前半の専門家の強気見通しをあざ笑うかのように、日経平均株価は9月下旬に昨年末の終値1万7450円を下回ってしまいました。9月上旬に底を打ったと思われましたが、どうやら完全に底を打ったとは言えないようです。どこまで下がるのかは神のみぞ知ることとなりますが、安倍首相は株価に対してプラスの目標を掲げたことは確かなようです。

9月24日、安倍首相は「アベノミクスは第2ステージに移る」と表明。2020年に向けて「新3本の矢」と題して、①希望を生み出す強い経済＝GDP（国内総生産）600兆円、②夢を紡ぐ子育て支援＝出生率1.8、③安心につながる社会保障＝介護離職ゼロの政権運営を進める考えを述べたのです。この中で株価に対して最も影響があるのは、①のGDPを600兆円にすることです。先取り経済NEWSの2014年11月に「実態経済を伴わない株価の行方は？」と題して、株価とGDPの関係を述べました。詳しくはそのコラムを参照していただきたいのですが（株価の見通しははずしてすみません）、簡単にいえばGDPと株式市場の時価総額はリンクする傾向が強いのです。

国内総生産(GDP)と東証1部時価総額



2014年度の名目GDPは約490兆円（速報値）ですから、金額にして110兆円、率にして約22%もGDPを増やすこととなります。本当に増やせるのかはさておき、9月30日現在の東京証券取引所第1部の時価総額が515兆円。目標通りに、GDPが600兆円になったとすれば、金額にして85兆円、率にして16.5%も時価総額が増えることとなります。同日の日経平均株価は1万7388円なので、16.5%上昇したとしたら2万257円まで上昇することとなります。たった2万円かと思われるかもしれませんが、2万円は最低ラインと考えられます。過去のGDPと時価総額の間関係を調べると、日経平均株価が史上最高値を付けた1989年には、時価総額はGDPの142%まで増えているのです（だからバブルだったと言えなくもいなですが）。仮にバブル期のようなことが起こったと仮定したら、時価総額は、目標とするGDP600兆円の142%増で852兆円。先の時価総額515兆円を基に試算すると時価総額は165%増になります。9月30日の日経平均株価1万7388円をあてはめるとGDPが600兆円になった暁には、最高で2万8766円まで上昇するかもしれないのです。夢幻となるのか、実現されるのか2020年が違った意味で楽しみになってきました。足下の株価低迷を嘆く必要は全くないのかもしれない・・・。